

# 白樹

HAKUJU

白樹会だより 第22号

平成30年3月1日

発行／山梨県立大学同窓会 白樹会

編集／白樹会編集委員会



## 広報誌&ホームページが一新

この度、白樹会の広報誌とホームページが一新しました。今後モバイルで確認していけたらと考えています。現在、名簿の更新作業をしています。住所変更の際は、HPより更新していただければと思います。



# 新学部長・研究科長 あいさつ

## 同窓会と共に高度な看護学の学び舎に！



山梨県立大学看護学部  
学部長  
村松照美

同窓会と共に高度な看護学の学び舎に！ 白樹会の皆様には、日頃から多大なご支援を賜り、心より感謝を申し上げます。お陰様で、池田キャンパス内の環境整備、教育及び学生活動の推進に反映させて頂いております。

看護学部は、昭和28年山梨県立高等看護学院の開校をスタートに、県立看護短期大学、県立看護大学、そして公立大学法人山梨県立大学へと学び舎の姿は変化していますが、先達から受け継いでいる理念は変わっておりません。大学の『第2期中期計画』に基づき、その理念を可視化する体制が整いました。全学の学士基盤力と、看護学部の理念・目的、教育目標に合わせて、8つの学士専門力を設定しました。学士専門力とは、卒業時までには学生が修得できる能力のことです。さらに連動したカリキュラム、各科目のシラバスの設定、授業実践の展開をしています。ホームページ等に大学方針が掲示されましたので、ご覧いただきご意見を頂ければ幸いです。

最後に、池田キャンパス内に同窓会事務局が設置されました。また県立高等看護学院であった4号館は看護

実践開発研究センター、嘗ての寮は大学院の校舎となっております。図書館は看護専門書と国内外の文献等検索が可能となっております。是非、皆様の母校にお出かけ下さい。そして、益々、本学と同窓会との連携を密にしながら、より高度な看護学の学び舎となるよう、更なるご支援をよろしく申し上げます。

## 支えられて学べることに感謝



山梨県立大学大学院  
看護学研究科長  
佐藤悦子

同窓会「白樹会」の皆様には、平素より大学院看護学研究科へのご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。平成14年4月に開学いたしましたから、16年が経ち、その間100名を超える修了生を全国に輩出して参りました。現在では、研究コースと専門看護師コースの2つのコースに分かれ、8分野開講しています。来年度は、基礎看護学が再開講いたします。

「自分たちがやっている看護を言語化し、果たしてその看護はその人に寄り添った看護になっているのか確認したい」「さらに専門性を追求し、質を高めるための研究をしたい」等々、看護実践現場からもっと学びたいという意欲を持った学生が集まってきました。

そして、夜遅くまで、看護についてのディスカッションで私たち教員もともに時間が過ぎるのを忘れるくらい夢中になります。大変ですが、楽しいです。

このような環境で学び合えるのは、職場から送り出してくださる仲間・上司、家族の支えがなければ成り立ちません。そのことは、毎年3月の学位授与式で修士（看護学）の学位を手にし

たとき、修了生のみなさんから出てくる言葉はまず「感謝」からも頷けます。様々なところで支えていただいたという「感謝」の気持ちは、やがて自分たちも人を支える基盤となると信じています。

本大学院も近い将来博士課程の設置を目指しております。同窓会の皆様からの今以上のご支援をどうかよろしくお願いいたします。



## 日々の支えに感謝を

山梨県立中央病院 看護師 三枝 享

看護師という職業は非常に魅力的である。なぜなら、様々な人や命、そしてそれらが紡ぐ物語を垣間見れるからだ。以前、ある患者さんが写真が趣味だと言っていた。どんな写真を撮るのかと問うと「そりゃもちろん山とか風景だよ。山梨は山が多いからね」と笑顔で話しながら、現像した自らの写真集を見せてくれた。そこにはいくつも素敵な写真があったが、圧倒的に富士山を写したものが多かった。新緑とともに映る富士山、赤富士、パール富士、精進湖からの逆さ富士。その方は、「趣味は人生を豊かにする。俺の場合は、写真だったよ」と語っていた。

実は私も写真を撮るのが趣味であり、人生の支えである。写真は瞬間と思いを切り取って保存でき、なおかつ日常に埋もれてしまふ素敵なものを見つけれられるところが非常に好ましい。現在はおもっぱら野鳥を追って甲府市内の川や池の周りに出没している。熱中する私に妻は冷めた目線を向けることもあるが、「さっさと近い未来には我が子の成長を収めるための出資なのだから大丈夫。目指せマルちゃんのパパだよ(さくらももこ著・ちびまる子ちゃん)」と言い訳をしている。しかし、嘆息しつつ笑って許してくれる妻が、そして看護師と修士課程の学生の二重生活をしている私を励ましてくれる妻が、当然の如く私にとっての一番の『支え』なのだと強調しつつ筆を置きたいと思えます。いつもありがとうございます。



## 支えること、気づかされること

山梨県総務部職員厚生課 保健師 小西裕子

私は平成21年に山梨県立大学看護学部を卒業後、山梨県庁に就職しました。保健師としてこれまで中北保健福祉事務所、山梨県立中央病院(現在は独法化)、健康長寿推進課に所属し、病気や障害を持つ方の不安や悩みの軽減、在宅生活の充実に向けた支援や、介護が必要になった方々の尊敬を持った暮らしの支援に携わってきました。そして現在は、職員厚生課で県庁職員の健康管理を担当しています。

病気や障害を持つ方との関わりの中で日々悩むことはありますが、上司や同僚、医療・福祉・介護の従事者、関係機関の方々といった相談できる人がいる、ということが私にとっての支えとなっています。また、これまでの経験の中でも、足が

不自由で難聴のある高齢者の在宅支援の調整に関わったことが強く印象に残っています。一人暮らしは難しいからと施設入所を勧めていましたが、納得してくれませんでした。コミュニケーションに難しさを感じながらも、筆談を使って時間をかけて話を聴く中で、体調管理に不安があっても月々一人暮らしを続けたいという思いを知り、改めてその思いを支える役割の大切さに気づかされました。また、お互いの人間関係が作られてきたときの喜びも忘れられません。

職場によって対象とする相手は異なりますが、その人の背景にある生き方や考え方を尊重しながら、対象者一人一人に寄り添っていききたいと思っています。



保健師

看護師

## 支え

## 自分を知る

山梨県立中央病院総合看護母子医療センター 助産師 飯嶋玲奈

助産師は生命の誕生に関わる微笑ましい現場にいると映るかもしれない。確かにそうだが、死産などの危機や死に直面することもある。緊迫したそうした場面で、自身を顧みず看護師として患者の役に立ちたいという一心でケアしていると共感疲労が増す。悲しい思いに共感しながらケアする中で実感するストレスと、トラウマなど種々のストレスが重なり合い、気づかぬうちにこの共感疲労は蓄積していく。さらに辛い思いをしている患者の役に立てなかつた悔やむ気持ちが蓄積するといつかバーンアウトしてしまう。時には立ち止まって、自分はこんな思い、辛い、悲しいという気持ちを患者に表してもいいのだと、ある研修で学んだ。大切なのは、感じたり見たりしている自分を認知しありのまま表



飯嶋玲奈

現すること。自分を俯瞰し、ケアする自分を知り、できた自分もうまくいかなかった自分もありのままに見てみよう。ある人が、ストレスとうまく付き合うには日常の成功体験を自覚することだと教えてくれた。その自覚が内に自信を育ててくれるという。ケアは双方向、患者の思いをただ受けるばかりでなく、自分の思いを患者に向けることも大切だ。M・メイヤロフは他者の成長を助ける人自らも成長し、発見し、創造するものであると説いている。見方をかえれば、看護師は患者に支えられ、成長させてもらっているのかもしれない。その支えの中で自分を認知し、成功体験を意識してみよう。ケアがより良いものになるかもしれないとふとそんなことを考えている。

## 養護教諭

## 支えられて今

甲府市立善誘館小学校 養護教諭 遠藤千帆

今の私にとって支えになっているものは何でしょう。

養護教諭として働いて十数年。学校には一校一人職として働いていますが、ますます保健室に求められることは多くなっています。というのも、学校現場では、限られた教師の人数で様々な問題を抱え苦しんでいる子どもたちの対応に追われている日々を送っている現状があるからです。

その中で養護教諭には救急処置はもちろんのこと、保健室登校、発達障害児への関わり、教育相談、保健指導など子どもたちの心と体の健康を支えることが常に求められます。時として失敗も経験したり、何とできない現実打ちのめされてもきまじき。しかし、今までどんなにつらいときで

も養護教諭を続けてこられたのは、同じ苦しみ悩みを抱える経験をもつ養護教諭の仲間の支え、学校の子どもたちの笑顔や元気になった姿、同じ学校現場で働く教師のチーム意識があったからだと思っています。もちろん、自分の子育てを経験してきた親としての自信も一つの支えになっています。

高等看護学院を卒業し、小さい頃から憧れていた養護教諭という職につくことができた本当に今まで指導してくださった高看の先生方、県立看護短大だった時の先生方には感謝しています。これからも多くの支えをもらいつつ、自分も学校の子どもたちの心の支えに少しでもなれるよう頑張りたいと思います。



遠藤千帆

## 支え

### 「白樹会のさらなる発展を!!」

公立学校法人 山梨県立大学  
看護学部同窓会「白樹会」会長  
山梨県立高等看護学院保健婦学科



16期生  
齊藤 けさ子

平成30年を迎え白樹会会員の皆様には、お健やかに御活躍のことと存じます。

日頃、白樹会の活動に多大なご理解・ご支援をいただいておりますことに感謝申し上げます。

さて、私も会長という大役をお引き受けたいし、二年目が過ぎようとして居ります今、白樹会が抱える課題が少しずつ見えてきた思いがいたすところです。母校は変遷を重ね時代に因應する大学、広い知識と高度な専門性を備えた看護実践者を育てることを目標に新生され、各職種の同窓生が県内外で活躍されておられます。

一方同窓会に目を向けますと、設立以来一貫して「会員相互の親睦と資質の向上をはかり、母校の発展に寄与する」等を目標に活動を継続して行っておりあります。こうした中、私は通常総会を主催者として催し、一抹の寂しさを覚えたところです。それは、総会への出席者が少ないことでした。なぜなら、総会は向かう年度の事業はもちろんで、同窓会が進む方向や課題を共有し、同窓会の発展を支える第一の場であると考えからず。そこで、役員一丸となり、「魅力ある同窓会を創造していくために」を

テーマに取り組んでいます。

その一つとして、「同窓会の見える化」をあげ、まずは会員の皆様に同窓会への関心を持っていただくべく、と、活動をすすめて居るところです。

その結果、長い間懸案となっていた「同窓会室」を設けることができ、整備を始めています。一日も早く、会員の皆様にもお立ち寄りいただけるようすすめて参りたいと思っております。

また、年一回ではありますが、会員の皆様にお届けいたしております「白樹会より」も、興味・関心を持ってお目通しいただきたいの思いから、内容や形式を変更し改訂版をお届けいたしますことといたしました。是非ご感想やご意見をお寄せください。

母校の発展という観点からは、学生の学びを支援、落ち着いた整備された環境の中で、勉学に励むことができるようにと、学舎周辺の環境整備を行うための支援を行いました。

今後も、会員の皆様とともに「魅了ある同窓会の創造」を目指していければと思っております。皆様方のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

尚、平成30年度も総会後に講演会を予定しております。

講師は、5大会連続パラリンピック入賞者・2017年世界パラ陸上競技選手権大会銅メダリストの鈴木徹氏をお迎えし、共に学び合う機会としたしたいと思います。多くの皆様のご出席をお待ちいたして居ります。

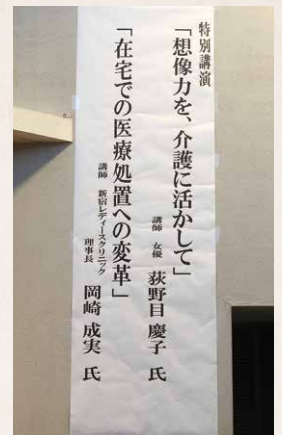
最後になりましたが、この度ご退官なされます伏見正江看護開発研究センター長におかれましては、同窓会「白樹会」への多大なご理解・ご支援を賜り感謝申し上げます。今後益々のご活躍をご祈念申し上げます。

## 平成 29 年事業計画

- |              |              |                                     |
|--------------|--------------|-------------------------------------|
| 1 通常総会開催     | 4 山梨県立大学看護学部 | 7 その他                               |
| 2 講演会開催      | 行事への参加・協力    | (1) ホームページの充実                       |
| 3 同窓会誌『白樹』発行 | 5 在学生への支援活動  | (2) リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2017 甲府への支援・参加 |
|              | 6 在学生との交流事業  | (3) 寄付金についての情報収集                    |

役職	氏名	所属
会長	齊藤 けさ子	自宅
副会長	山岸 良治	地方独立行政法人山梨県立病院機構 山梨県立中央病院
	中嶋 君枝	山梨大学医学部附属病院
事務局長	木内 千枝	地方独立行政法人山梨県立病院機構 山梨県立北病院
書記	新藤 裕治	公立大学法人 山梨県立大学看護学部
	森田 祐代	前公立大学法人 山梨県立大学看護学部
会計	高取 充祥	公立大学法人 山梨県立大学看護学部
	三澤 みのり	公立大学法人 山梨県立大学看護学部
事務局員	遠藤 千帆	甲府市立 善誘館小学校
	小西 裕子	山梨県総務部職員厚生課
	小沢 めぐみ	峡南医療センター富士川病院
	梶原 瞳	日本赤十字社 山梨赤十字病院
	飯嶋 玲奈	地方独立行政法人山梨県立病院機構 山梨県立中央病院
	星野 麻子	山梨県立育精福祉センター
	市川 佳子	山梨大学医学部附属病院
	渡邊 優	国民健康保険 富士吉田市立病院
	井出 和子	医療法人 のだ内科クリニック
	三枝 享	地方独立行政法人 山梨県立病院機構 山梨県立中央病院
	前澤 美代子	公立大学法人 山梨県立大学看護学部

# 白樹会総会・講演会



## 平成30年度 総会・講演会

2018.5.26 (土)

12:00 ~ 受付  
 12:30 ~ 通常総会  
 14:00 ~ 講演会

講師：鈴木徹氏（義足のハイジャンパー）

講演会テーマ：『障がいをもって分かったこと  
 ~看護師の支えがあったからこそ今がある~』

対象者：関心のある方はどなたでもどうぞ **参加費無料**

## リレーフォーライフへの参加・支援



## 聖灯祭への参加・支援

## 国際交流支援活動



今回のラオスタウンツアーでは、JICAラオス事務所、NPO法人ISAPHの2つの組織で、現場の方々の声を伺い、その活動を見学する機会をいただきました。前半のJICAでのお話を伺う中で特に印象的だったのは「母子保健の課題のみならず、がんや糖尿病、肺炎などによる死亡率も高く、アプローチすべき点は非常に多い」という言葉。そして「ラオスの子どもたちの小学校最終学年到達率の低さや食生活に関連する貧困・飢餓の問題」に関する話でした。ラオスに実際に足を運ぶまでは「妊産婦死亡率や乳児死亡率などの統計から、母子保健が最重要課題なのではないか」と認識していた私にとって、統計という数字だけにとどまらず課題を広く見据えることの重要性や、すべての人の健康を確保し必要なサービスを支払うことのできる費用を受けられる「ユニバーサル・ヘルズ・カバレッジ(UHC)」の視点を持つことの重要性をこの時痛感しました。後半では、ピンチャンから遠く離れた、カムアン県で実際に現地の方々と交流しながら保健活動をされているNPO法人のスタッフの活動を間近で見学する機会を得ました。ISAPHの方々は、現地の方々と交流し生活の様子を住民の視点で捉えながら必要な教育や保健活動を見極めていくこと、そしてこうした住民に近い立場にあることがそのが現地の方々の本当のニーズを引き出せる鍵に繋がっているのではないかと感じました。文化も慣習も全く異なる地で、現地の方々も現地なりの方法で健康の形を模索し確立していることと働きかけ奔走するISAPHの方々今回開かせて頂いたことは、私の人生の中で考え方や視野を広げる非常に貴重な機会となりました。

### 「国際保健医療演習」参加で得た国際協力の視点

山梨県立大学看護学部4年 在原寛乃



## 大学構内環境整備への支援



## 未来をつなぐ、 看護の力 愛と勇気と希望を持って

山梨県立大学看護学部  
母性看護学・助産学教授

伏見正江

白樹会同窓生の皆さま、本学の教育・研究・地域貢献に多大なご支援を賜り深く感謝申し上げます。私が看護実践者として第一歩を踏む1970年代、WHOは「西暦2000年までにすべての人々に健康(Health for all)」という目標を定め、プライマリー・ヘルス・ケアの世界的普及を呼びかけました。健康を基本的な人権(Health as a basic human rights)として認め、その達成の過程において、住民の主體的な参加や自己決定権を保障する考えです。看護教育においては、男性を含む新しい

家族形態の創生に積極的に関り、生涯を通じた性と生殖の健康を権利として遵守する教育が求められました。看護実践者においては、人間存在の尊厳・価値・自立心および個性の尊重を認め、自分の信ずるところにしたがって力強く行為するための決断力が重要とされました。私は、女性のヘルスエンパワメントに積極的に関わり、立脚点を同じくする教員、同窓生さらに地域の女性たちの支援のもとで、心を熱くして『看護学』の経験知を高めてきました。2018年3月、定年退職にて教壇を去りますが、世界に類のない超少子高齢時代をむかえた今、希望をもって一人ひとりがこの出来事に重要な挑戦、同時に機会とし同窓生の皆さまと共に取り組んでいきたいと考えます。生命力(バイタルパワー)を高める看護の手の力、説得力あるパートナーシップの基で実施されているウエルネスアクシオンを応援しています。そして、お目にかかれる日を楽しみに……。

山梨県立大学看護学部



## 伏見正江教授 最終講義のご案内

### 女性の健康とジェンダー

～未来をつなぐ、看護の力、  
愛と勇気と希望を持って～

日時: **2018年3月1日(木)**

午後3時から午後4時30分/受付: 午後2時30分から

場所: 山梨県立大学 池田キャンパス 講堂

□お問い合わせ

山梨県立大学看護学部 母性看護学・助産学  
電話・FAX 055-253-9474  
Mail hagihara@yamanashi-ken.ac.jp

※ 学外の方も  
聴講できます。  
参加は無料です。



ました。  
どのような活動においても、健康を支えるためにはまず、住民の健康に対する認識の確立や教育環境を整えることが非常に重要な基盤となってきます。しかし、その地で長く醸成されてきた慣習や文化・考え方を「健康のため」という理由で全く別の方向に導くのはとても難しく、加えてラオスの子どもたちは労働を理由に教育を十分に受けることが困難な状況にあるという背景もあることを知りました。こうした背景や事実を踏まえ、改めて私は「現地のこれまでに辿ってきた考え方を尊重し、また現地のの方々を取り巻く環境や体制そのものを見つめなおす」ことがいずれば「健康」という生きる上での基盤となる権利の獲得に繋がっていくのではないかと感じました。  
時に広く国家を見ながら、時に住民に近い視点で生活を見ながら支援をされている JICA や I SA PH の活動に、私自身、今回頂いた機会を通してさらに興味を持つことが出来ました。これを機に国際協力の在り方、そして一人として持つべき視点など自分なりに模索しながら今後さらに考えを深め、得られた学びを糧として社会に貢献できるように努力していきたいと思えます。

## 平成 28 年度 収支決算報告

収入総額 3,259,683 円  
 支出総額 1,401,440 円  
 差し引き残額 1,858,243 円 (29 年度に繰越)

### 収入の部

(単位：円、△：減)

項目	28年度予算額	28年度決算額	増減	備考
繰越金	1,419,626	1,419,626	0	
入会金及び終身会費	2,000,000	1,840,000	△ 160,000	94名入会
雑収入	150	57	△ 93	通帳利息
合計	3,419,776	3,259,683	△ 160,093	

### 支出の部

項目	28年度予算額	28年度決算額	増減	備考
会議費	163,000	99,154	△ 63,846	
総会費	100,000	56,154	△ 43,846	会場生花、茶話会経費等
役員会費	60,000	43,000	△ 17,000	役員の交通費、退任記念品等
委員会活動費	3,000	0	△ 3,000	推薦委員会
事業費	590,000	614,905	24,905	
講演会	70,000	50,000	△ 20,000	講師経費、交通費
同窓会誌「白樹」印刷費	320,000	347,594	27,594	印刷費+消費税
在校生支援事業	200,000	217,311	17,311	卒業記念品、キャリア「イ」ン支援費、フューチャー支援費、聖灯祭支援費、合格祈願品費
事務費	616,848	522,057	△ 94,791	
会員事務委託費	60,000	648	△ 59,352	名簿管理/ガコ印刷
消耗品費	10,000	3,888	△ 6,112	振込依頼書電信用紙
通信費	350,000	349,697	△ 303	同窓会誌「白樹」発送等
HP保守・管理費	130,000	138,780	8,780	(株)加7年間保守費用、手数料
印刷費	50,000	13,600	△ 36,400	総会資料印刷
貸金庫代	16,848	15,444	△ 1,404	
賃金	100,000	16,000	△ 84,000	会員名簿整理費
慶弔費	50,000	19,000	△ 31,000	学部長(会員)退官祝壇上花
予備費	1,899,928	130,324	△ 1,769,604	海外研修支援金、リレフォーラム広告費
合計	3,419,776	1,401,440	△ 2,018,336	

## 白樹会基金設立準備中

多くの方より寄附の希望をいただいております。  
 白樹会基金として、平成 30 年を目処に設立の準備を進めています。

ごあんない

### 山梨県立大学大学院看護学研究科 平成31年度大学院生募集

詳しくは、「山梨県立大学大学院」を検索  
<http://www.graduatenuresing-yamanashiken.com/>

### 看護学部 シンポジウム 2017 健康な地域づくりの構築に向けた 取り組みと課題

日時：2018年3月8日(木)  
 13:00~16:00 (受付 12:30~)  
 会場：山梨県立大学 池田キャンパス 講堂

入場  
無料

山梨県立大学看護実践開発研究センター

### 母校で 認定看護師をめざそう!

(緩和ケア・認知症看護)  
 詳しくは <http://rcdnp.yamanashi-ken.ac.jp/>

### 平成30年度 通常総会講演会

日時：2018年 5月26日(土)  
 (12:00~ 受付/12:30~ 通常総会/14:00~ 講演会)  
 場所：山梨県立大学 池田キャンパス 講堂

編集後記

世の中は、人工知能ロボットの発展や2020年の東京オリンピック開催に向けて変革しています。この中、看護もまたロボットに託すところと人間にしかできない介入はなにか、看護の意味が問われてきます。また、成年は、「地盤を守る」という意味があると言われてます。そこで、今年の会誌のテーマは「支え」としました。それぞれの立場や状況において、支え、支えられていることに感謝し、さらなる山梨県立大学看護学部を支援していきたいと思っております。今年から本会誌は、白樹会の活動や総会の内容をわかりやすく伝えたいという目的で検討を重ね、新たなフォーマットでの会誌となりました。ホームページも刷新しました。どうか、みなさまのご意見をお寄せください。

前澤、新藤、高取、飯島